



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

子供たちの意欲を大切に

よく走り回る…私にとって、子供たちのイメージです。ゆっくり歩けばいいのに、とにかく走る。公園を散歩していれば、常に走り回っている小さな子供たちに出会います。入谷小学校でも、子供たちは、よく走り回っています。全身を使って自分の力を表現している、そんな子供たちを見ると、子供たちはエネルギーの塊だなあと感じます。そもそも、子供というのは、前向きで、意欲的なのだらうと思います。

ところが、文部科学省のHP上には、次の2点の記載がありました。

-
- ・高校生に対し、今自分が通っている高等学校に入学した動機について尋ねたところ、普通科の生徒の約6割は、「自分の学力にあっている」と回答はしたものの「自分の個性を伸ばすことができると思う」・「自分のやりたい勉強ができると思う」と答えた生徒はそれぞれ15%に満たないという結果となった。(平成18年文部科学省委託財団法人日本進路指導協会「中学校・高等学校における進路指導に関する総合的実態調査」)
- ・子供たちの学習意欲という観点からは、「国際的な調査(TIMSS調査、PISA調査)において、日本の子供たちは、他国に比べ、将来就きたい仕事や自分の将来のために学習をしようとする意識が低いということが明らかとなっている。
-
- 「宇宙に関する仕事がしたい。」「もっと

宇宙のことを学びたくなかった。」この言葉を発したのは、6年生です。12月10日(金)国立天文台にお勤めの渡部剛先生を講師としてお招きし、宇宙についてお話いただきました。専門的な内容を子供たちにわかりやすく、例を示しながらお話くださいました。子供たちは、真剣に話を聴き、たくさん質問をしていました。全員が質問することができず、授業は終了。しかし終了後も自主的に渡部先生に質問をする子供たちがたくさんいました。子供たちの目は輝いていました。

専門性高く、研究をなさっている渡部先生が、仕事そのものを楽しんでおられる姿に触れることができたことも子供たちに大きな力となりました。

渡部先生、ありがとうございました。



社会の「本物」に触れさせることは、本来もっている子供たちの心に火をつけていくのではないかと、心の中に種をまいていくことに繋がるのではないかと考えます。今後も、子供たちの成長に繋がる教育活動を充実させていきたいと思っています。